

刊行にあたって

この冊子は、2008年3月8日に実施されたマレーシアの第12回総選挙の結果を分析するため、2008年5月4～5日に京都大学で開催された公開フォーラム「『民族の政治』は終わったのか?—2008年マレーシア総選挙の現地報告と分析」をまとめたものである。

よく知られているように、マレーシアには社会的亀裂がいくつもあるため、1人の研究者が全体像を把握するのは難しく、マレーシア研究では複数の研究者による協働が求められる。この公開フォーラムが実現可能になった背景の1つに、日本におけるマレーシア研究の層が厚くなり、また、日本マレーシア研究会 (JAMS) などの活動を通じてマレーシア研究者の連携が進んでいることがある。

近年の日本のマレーシア研究の特徴として、地域別や分野別の研究が進んでいることが挙げられる。それぞれの州を専門に研究する研究者も生まれているし、比較政治学や比較教育学などの特定の学問的ディシプリンを身につけたうえでマレーシアに長期滞在して調査を行い、マレーシアと事例研究以上の関わりを持つ研究者も増えている。さらに、外交や民間企業などマレーシアと関わる現場で実務経験を積む一方で、研究者の顔も持ってマレーシアと関わり続けている人々も増えてきている。この公開フォーラムも、マレーシアの政治研究ですでによく知られている研究者に加えて、さまざまな分野の専門家の参加を得ることで多面的な検討が可能になった。総選挙のすぐ後だったために必ずしも十分な準備期間があったわけではないが、各報告者が入手できた情報をもとに、これまでの観察を踏まえて分野ごとの理解を持ち寄り、議論を重ねることで、今後マレーシア政治が向かいうるいくつかの可能性とその意味が見えてきた。

この冊子には、フォーラムでの議論をもとに各報告者が改訂した報告に加えて、セッションごとの討論を掲載した。報告部分では、政党名や人名などの表記に関して、各報告者の表記方法を尊重したため、執筆者のあいだで表記の不統一が見られるところがある。また、討論部分では編者の責任で表記をなるべく統一したため、同一の報告者が報告部分と討論部分で異なる表記を行っているように見える箇所がある。

表記の不統一に関して特記すべきものとして、各州の行政の長にあたる職位がある。マレー語では州によって *Ketua Menteri* または *Menteri Besar*、英語では Chief Minister と呼ばれる。サバやサラワクのように州議会の勢力に応じて州の意向で決まり、州行政における広範な権限を有するものと、半島部諸州のように、州議会と連邦議会がともに与党連合の国民戦線 (BN) によって占められているという前提のもと、BN中央の執行部によって指名された人物があたり、州行政上の権限が極めて限定的であるものがある。日本語文献では「州首相」「州知事」「州主席大臣」「州首席大臣」「州行政委員長」などの表記が見られ、統一されていない。本報告書では、討論部分では州首相に統一したが、報告部分では報告者によって異なる表記がなされている。このため、特にマレーシア事情にあまり馴染みのない読者には読みづらい点があると思われるが、ご寛恕賜りたい。

巻末の資料は、マレーシアの政党一覧および1955年から2008年までの連邦議会と州議会選挙結果の一覧を収録している。政党名や議席数などの基本情報はそちらを併せてご参照いただきたい。

本報告書のもととなった公開フォーラムは、関西マレー世界研究会が主催し、以下の研究会・研究プロジェクトが共催することで実現した。

- 京都大学地域研究統合情報センター共同研究ユニット
「イスラム教圏東南アジアにおける宗教と民族の複層化」(代表：山本博之)
- 科学研究費補助金(基盤研究B)
「イスラム教圏東南アジアにおける学知の制度化と実践に関する総合的研究」(代表：山本博之)
- 科学研究費補助金(基盤研究A)
「ポスト・グローバル化時代の現代世界：社会の脆弱化と共存空間の再編」(代表：押川文子)
- 科学研究費補助金(基盤研究B)
「グローバル化時代の民主化と政軍関係に関する地域間比較研究」(代表：玉田芳史)
- 京都大学東南アジア研究所「比較の中の東南アジア」研究会
- 東南アジア学会関西例会
- 日本マレーシア研究会関西例会

主催者を代表して、共催してくださった各研究会・研究プロジェクトの代表者・担当者の方々に厚く御礼申し上げるとともに、連休中にもかかわらずフォーラムに参加して積極的に討論に参加してくださった方々、なかでもフォーラムの企画・準備と当日の運営を担当してくれた河野元子さん(京都大学大学院)、村上咲さん(同)、鈴木絢女さん(日本学術振興会特別研究員)の3名と、本報告書のために短期間にたいへん立派な巻末資料を作成してくれた鷺田任邦さん(東京大学大学院)に感謝の意を表したい。

2008年7月
山本 博之